

特集.3

# 地域の皆が協力して人にやさしく住みやすい地域づくり 「認知症高齢者・ご家族が安心して住める角野校区に」

(新居浜市)  
すみの見守り・SOSネットワーク協議会 会長 藤田 俊治



## 私達の角野（すみの）校区について

新居浜市角野校区は、別子銅山で栄え東洋のマチュピチュとして人気のある東平、道の駅マイントピアがある山間部を含む四国山脈の懷に抱かれた地区で、人口は約1万2千人弱（新居浜市の人口の約一割）高齢化率33%の地域です。銅精錬用の煙突が残された生子山は「エントツ山」と

呼ばれ、角野校区のシンボルとなっており、その山の麓にある山根グラウンドで行われる秋祭りには、19台の太鼓台が華麗な動き比べを行うことでも有名です。



新居浜秋祭り 山根グラウンド

## すみの見守り・SOSネットワーク協議会設立

最近の人口高齢化の進展により、「認知症高齢者 徘徊行方不明者が年間一万

人を超える」との報道があったり、また65歳以上の高齢者の内15%が認知症であるとのデータも示されています。このような社会情勢下、平成25年に校区内の認知症高齢者の方が行方不明となり、後日ご遺体で見えされるという、大変痛ましい事故が発生したのです。

この事故発生後、認知症徘徊者を助ける活動しようとの声が角野校区地域ケアネットワーク推進協議会の中で高まってきました。

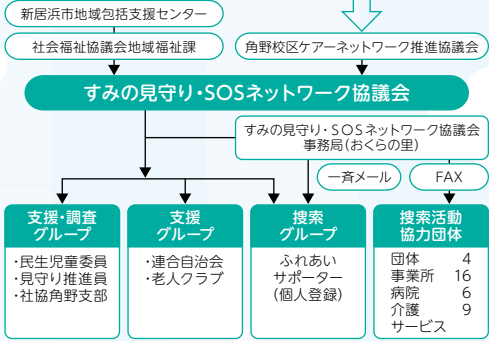
平成26年4月、関係者により「認知症高齢者徘徊SOSネットワーク」を構築し、角野校区をモデル地区として活動するため、検討会を立ち上げました。そして、徘徊不明者捜索活動だけでなく、認知症高齢者が角野校区で安心して生活できる環境を目指すこととして、平成26年6月に準備委員会を立ち上げ、名称を「すみの見守り・SOSネットワーク協議会」としました。

その後、平成27年4月1日、正式に協議会を立ち上げ、角野校区住民である高齢者や支援を必要とする方々に対し、校

区内の関係団体、協力企業、活動への賛同者がお互いに連携しながら、地域のつながりで認知症徘徊者をサポートする活動が始まったのです。  
**具体的な活動の内容**

すみの見守り・SOSネットワーク協議会は主に3つのグループで活動しており、組織の構成は図のとおりです。

- ①新居浜市地域包括支援センター
- ②新居浜市役所介護福祉課
- ③社会福祉協議会地域福祉課
- ④社協角野支部
- ⑤見守り推進員
- ⑥民生児童委員協議会
- ⑦角野校区自治連合会
- ⑧老人クラブ連合会
- ⑨保健センター
- ⑩おくらの里



すみの見守り・SOSネットワーク協議会 組織図

● 支援・調査グループ

民生児童委員、見守り推進員が中心となり、「認知症は病気であること」の広報活動を行っています。認知症は病気であり誰でも発症する可能性があることと認知症患者への接し方を理解していただき、認知症患者・ご家族の負担を軽減するための資料の作成、配布や、協議会の活動を紹介する広報誌を年4回発行しています。

今年、寸劇の練習・発表を通じて認知症や認知症の方への接し方を理解してもらうため、「すみのふれあい劇団」を設立しました。外を歩いているお年寄りに声を掛けるのは非常に難しいことです。散歩時などに普段の様子と違った方へ自然に声かけできるように、劇を通して声掛けや接し方の練習をしています。

また、寸劇で認知症役を演じることで、少しでも認知症の方の心情を理解できるように努めています。



ふれあい劇団練習風景

高齢者認知症の方が所在不明になった場合、ご家族の方が警察署に捜索手続きを行っている間の時間、事務局から捜索依頼の一斉メールを受けたふれあいサポーターが捜索を行うとともに、FAXを受けた企業・団体などの協力団体も捜索に加わり、早期発見・保護を行っています。

協議会が活動を始めてから1年間の成果として、徘徊不明者を捜索する第1回捜索模擬訓練を今年3月に実施しました。ふれあいサポーター、協力企業・団体への捜索依頼情報の発信、道路を歩く不明者役への声掛け・発見後の連絡、不

受けるようになりました。現在劇団員を募集しています。

● 支援グループ

認知症が病気であることの周知とそのご家族を支援するため、認知症サポーター養成講座を開講するなどして、認知症について多くの方知ってもらおうとともに、ご家族に自治会行事等への参加を呼び掛け、一時でもご家族の負担を軽減できるような活動を老人会、連合自治会が中心となり行っています。現在「ご家族の憩いの場」設置を検討しているところです。

● 捜索グループ

明者役が他の家庭を訪問した場合、対応の中で不明者であると気づいてもらう訓練などを、捜索範囲を限定して行いました。



捜索模擬訓練の様子

● これからの活動について

昨年から手さぐりで活動を始めた協議会は、現在捜索協力企業・団体35、校区自治会を中心に343人がふれあいサポーターとして登録いただき活動していますが、角野校区を対象としていることから、捜索範囲などが校区外に及ぶ時の対応など諸課題も見えてきました。

これからも、地域の課題解決のため皆が知恵を出し合い、認知症高齢者やその家族が安心して暮らせる角野地区となるよう、より多くの地域住民の方々、そして各企業・団体の方の参画、ご協力を仰ぎつつ、皆さんと一緒に事業を推進してまいります。